



全国私立大学 FD連携フォーラム

News Letter No.17

CONTENTS

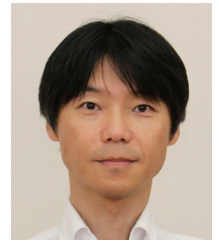
P.2	ご挨拶
P.3	加盟校一覧/ 2021年度取組概要
P.4-5	2021年度前半期活動報告 (総会・シンポジウム)
P.6-7	2021年度後半期活動報告 (懇談会企画/幹事校・会員校ミーティング)
P.8	入会のご案内/実践的FDプログラムのご案内



▶ 代表幹事校・地域担当幹事校【西日本担当】 中部大学

コロナ禍から2年が経過して —コロナ禍でのJPFFの役割—

中部大学 大学企画室 高等教育推進部長
石田 康行



中部大学では、『魅力ある授業づくり』をFD活動における重点目標としています。教育活動の改良・改善に向けた教職員の資質向上を主眼として、学長を委員長とするFD・SD委員会のもと、各学部・学科と密に連携を取りながら多様なFD・SD活動を展開しています。また、FD・SD活動の主管部署として、大学企画室高等教育推進部（2019年度より大学教育研究センターから組織変更）がその推進や支援を担っています。手前味噌ながら本学のFD・SD活動の特徴を一つご紹介しますと、組織的な活動と、個々の教職員の熱意溢れる草の根的な活動が上手に組み合わせられて進展している点かと自負しております。

本学は2012年にJPFFに加盟し、その後2020年6月から地域担当幹事校を担当しております。さらに2021年6月からは代表幹事校を明治大学より引き継ぎました。今もって、新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着く気配を見せませんが、幹事校・会員校間の連携やオンラインツールの活用も相まって、本フォーラムは各種のイベント開催や情報交換の場の提供を

維持できています。改めまして、幹事校・会員校の皆様方のご協力にお礼申し上げます。

そのコロナ禍の発生から、すでに2年が経過しました。この間、大学教育に携わる我々は様々な苦労を強いられました。そこで得た経験や知見の中にはFD活動においてプラスに作用するものも少なくありません。例えば、当初は実施を強いられたオンラインでの授業方法も、現在では対面授業とのハイブリッド化を始め、新たな授業運営の展開に広く活用されています。また、学生による授業アンケートの結果を見ますと、学生が授業に抱く関心は、単に授業内容のみならず、その形式や運用方法に至るまでかつてないほどに高まっています。こうした中で、各大学の教育や授業改善に関する課題を共有し、今後の方針を展望するJPFFの役割は高等教育の発展のために今まで以上に重要なものです。このJPFFでの皆様方の議論や交流が、コロナ禍におけるFD関連の課題解決はもちろんのこと、アフターコロナにおける新しい大学教育の在り方の形成にも資することを期待しています。



▶ 地域担当幹事校【東日本担当】 立教大学

Afterコロナを見据えて —大学教育の進化をJPFFとともに—

立教大学 大学教育開発・支援センター長
小澤 康裕



立教大学大学教育開発・支援センターは、立教大学における教育の改革と改善を支援し、その充実と高度化に資することを目的として2004年に設置されており、大学院および各学部等で行われる教育改善の援助役をつとめ、導入教育、FD活動・授業評価など、全学的な教育改革・カリキュラム改善の情報センターとして機能しています。当センターは、TL（ティーチング・アンド・ラーニング）部会と教学IR（インスティテューショナル・リサーチ）部会の2つの部会で構成され、TL部会は、全学を対象としたFDや、学生の学修支援に関わる業務を担っており、授業改善のためのワークショップやシンポジウムの企画・運営、学修支援のための冊子作成などを行っています。一方、教学IR部会は、授業評価アンケートや教学データ集計、学生調査など、教育や学びの成果測定に関わる業務を担っており、両者がシナジー効果を発揮して、上記の目的を達成するために活動しています。多くの学部から専任教員がセンター員として携わり、また助教

数名と職員で協同してアイデアを出し合い、様々な取り組みを行ってきています。その成果の一部は、当センターのウェブサイトに掲載しておりますのでぜひご覧ください。

JPFFとのかかわりとしては、本学では当センターが中心となり、2008年のJPFF発足時より加盟し、その後2021年6月から地域担当幹事校を仰せつかっております。また、2022年6月からは代表幹事校の重責を担う所存です。まだコロナ禍がおさまらず、先が見えない状況ですが、会員各校の皆様が資する運営を目指します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この2年間の大学教育は、主にオンライン授業での学修環境において、いかに良い授業を提供するかに注力する一方で、Afterコロナを見据えての議論も活発に実施されてきているように思います。このJPFFでの皆様方との議論や交流を通して、この2年間の経験を今後活かし、コロナ以前と比べた大学教育の進化を必ず実現したいと考えております。

加盟校一覧

代表幹事校	中部大学		
地域担当幹事校	立教大学【東日本担当】	中部大学【西日本担当】	
幹事校	関西大学	関西学院大学	慶應義塾大学
	國學院大學	創価大学	中央大学
	中部大学	同志社大学	法政大学
	明治大学	立教大学	立命館大学
	龍谷大学	早稲田大学	
会員校	愛知大学	青山学院大学	神奈川大学
	関東学院大学	北里大学	九州産業大学
	京都産業大学	甲南大学	神戸学院大学
	国土館大学	芝浦工業大学	上智大学
	専修大学	中京大学	帝京大学
	東京農業大学	東北学院大学	東洋大学
	南山大学	日本大学	福岡大学
	武庫川女子大学	名城大学	明星大学

50音順、全38大学（2022年3月現在）

2021年度 取組概要

2021年度 幹事会

日 時：2021年6月19日(土)12:00～13:00
形 式：オンライン

東洋大学 デジタル活用推進本部事務局 課長 新山 文洋 氏
法政大学 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター長 山本 兼由 教授

2021年度 総会・シンポジウム

日 時：2021年6月19日(土)13:00～16:30
形 式：オンライン
※感染状況を鑑み明治大学駿河台キャンパスでの対面開催は見送りとなりました。

- ◆2021年度シンポジウム
テーマ：「デジタルを活用した大学教育高度化プラン」
- ◆講演① 文部科学省 高等教育局専門教育課 課長補佐 木谷 慎一 氏
- ◆講演② 関西大学 学長補佐・人間健康学部 岡田 忠克 教授
- ◆講演③ 東洋大学 デジタル活用推進本部事務局 課長 新山 文洋 氏
- ◆講演④ 法政大学 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター長 山本 兼由 教授
- ◆パネルディスカッション
明治大学 教育開発・支援センター長 千田 亮吉 教授
関西大学 学長補佐・人間健康学部 岡田 忠克 教授

2021年度 代表幹事校ミーティング

日 時：2021年10月4日(月)13:30～15:00
形 式：オンライン

2021年度 幹事校・会員校ミーティング

日 時：2022年1月28日(金)13:00～14:00
形 式：オンライン

2021年度 懇談会企画

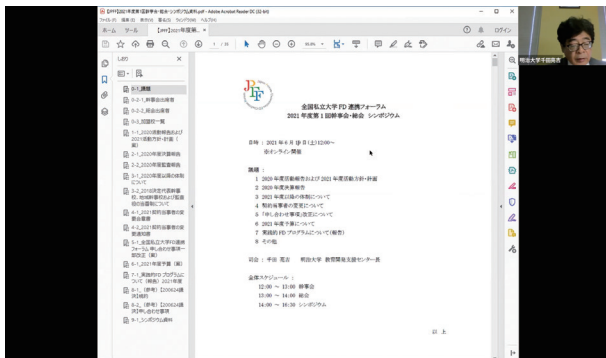
日 時：2022年1月28日(金)14:00～16:30
形 式：オンライン
テーマ：大テーマ：With/Afterコロナ時代における高等教育について
2つのテーマ（授業のあり方・FD活動のあり方）について、各大学における特色ある取り組みや課題を共有

総会・シンポジウムを振り返って

明治大学

教育開発・支援センター長 千田 亮吉

2021年度の全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）総会ならびにシンポジウムが、2021年6月19日（土）に、オンライン開催されました。



総会の様子

総会では、代表幹事校の明治大学から、教育開発・支援センター 千田 亮吉センター長が司会を担当し、2020年度の活動・決算報告を行いました。その後、2021年度から代表幹事校を引き継ぐ中部大学 高等教育推進部部长 石田 康行教授の進行により、2021年度の活動計画とその概要、年間スケジュール、予算等について報告と審議が行われました。本総会において、2021年度の体制についても紹介があり、東日本地域担当幹事校を務める立教大学から、大学教育開発・支援センター 小澤 康裕センター長にあいさつを頂きました。

総会に引き続き開催されたシンポジウムでは、「デジタルを活用した大学教育高度化プラン」をテーマとして掲げました。2008年の設立以降、中規模以上の私立大学の連携によって、共通の課題の改善や、社会が求める教育の質を保障するための取組を行ってきた全国私立大学FD連携フォーラムとして、昨今の社会情勢を踏まえ、デジタル技術を積極的に取り入れ、「学修者本位の教育の実現」、「学びの質の向上」に資するための取組における環境を整備、教育手法を具体化し、その成果の普及を図ることを目的としたプランの採択事例等を通して、ポストコロナ時代の高等教育について考えるため、文部科学省 専門教育課 木谷 慎一氏、関西大学 学長補佐・人間健康学部 岡田 忠克教授、東洋大学 デジタル活用推進本部事務室 新山 文洋氏、法政大学 教育開発・学習支援センター長 山本 兼由教授を講師に招き、

講演、ならびにパネルディスカッションを行いました。

明治大学教育開発・支援センター 千田 亮吉センター長によるあいさつの後、初めに木谷 慎一氏からは、「デジタルを活用した大学教育高度化プラン」の概要や、今後のAI戦略についての展望等の観点から話題提供を頂きました。

次に、関西大学・東洋大学・法政大学から「デジタルを活用した大学教育高度化プラン」採択事例について、ご講演いただきました。

4名の講師による講演の後は、明治大学教育開発・支援センター 千田 亮吉センター長がコーディネーターを務め、3大学によるパネルディスカッションを行いました。教員・職員問わず、参加者の皆さまからは、活発な質問がなされ、大変示唆に富んだ有意義な時間となりました。

シンポジウムの最後は、2021年度代表幹事校である中部大学 高等教育推進部部长 石田 康行教授より閉会のあいさつがあり、今回の総会、シンポジウムは盛会のうちに終わることができました。

今回のシンポジウムには、37大学から106名の方々に参加いただきました。昨今の大学を取り巻く状況の変化は著しく、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、これまで対面が当たり前だった大学・高等専門学校の教育において遠隔授業の実施が余儀なくされ、多くの大学ならびに大学関係者が、デジタル活用に対する政策の動向に関心を持っており、私立大学の置かれる様々な状況を乗り越えるための方策を真剣に模索していることかと思えます。



明治大学 千田 亮吉教授



関西大学 岡田 忠克教授

オンライン開催により多くの方々にご参加いただける機会を提供できたことで、例年の倍以上の方にご参加いただき、大変感謝しております。

参加者からは「各大学がDX等について真摯に取り組んでいることがよく理解できた」「各大学で共通の課題を抱えている点など知ることができて良かった」等の声が寄せられました。

全国私立大学FD連携フォーラムに所属する、一つひとつの加盟大学をみても、FD推進の先導的な大学であり、連携による相乗効果は、計り知れません。引き続き、本フォーラムの連携がそれぞれの私立大学の改革と高等教育全体の発展に寄与していくことを期待しております。



法政大学 山本 兼由教授

シンポジウム次第

◆ 開会挨拶

千田 亮吉 教授 (明治大学 教育開発・支援センター長)

◆ 講演①

「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン等について」

木谷 慎一 氏 (文部科学省 高等教育局専門教育課 課長補佐)

◆ 講演②

「関大 LMS で繋がる「今の学び」と「未来の自分」ー学習環境の再構築とキャリア支援ー」

岡田 忠克 教授 (関西大学 学長補佐・人間健康学部)

◆ 講演③

「学生一人ひとりの成長を約束する学修者本位の教育の実現」～“3万人の Learning Journey”の羅針盤～」

新山 文洋 氏 (東洋大学 デジタル活用推進本部事務室 課長)

◆ 講演④

「HOSEI Hi-DX による個別最適化された学び～法政モデルの実践」

山本 兼由 教授 (法政大学 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター長)

◆ パネルディスカッション

コーディネーター：千田 亮吉 教授 (明治大学 教育開発・支援センター長)

パネリスト：岡田 忠克 教授 (関西大学 学長補佐・人間健康学部)

山本 兼由 教授 (法政大学 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター長)

新山 文洋 氏 (東洋大学 デジタル活用推進本部事務室 課長)

◆ 閉会挨拶

石田 康行 教授 (中部大学 高等教育推進部 部長)

2021年度懇談会企画 開催

2022年1月28日（金）、JPFF加盟校による第11回懇談会が開催されました。例年は東西に会場を設定し、対面形式で懇談会企画を行った後、東西の会場をテレビ会議システムで接続して情報共有を行います。しかし、新型コロナウイルス感染状況を考慮し、昨年度と同様にオンライン開催としました。

この懇談会は各大学におけるFD活動の取り組みの改善・発展の一助とすることを目的としています。事前にディスカッションテーマを決め、テーマに関する各大学における課題やグッド・プラクティスを共有しています。

今回は、「With/Afterコロナ時代における高等教育について」を大テーマとし、「授業のあり方について」、「FD活動のあり方について」の二つをテーマとして、5～6名のグループに分かれてディスカッションを行いました。グループディスカッションでは、各大学での取り組み状況についてご報告いただき、課題や改善策についても議論しました。グループディスカッションの後には、各グループで出された意見を報告し合い、情報共有を図りました。

【実施概要】

日時：2022年1月28日（金）14：00～16：30

実施方法：オンライン開催

【グループディスカッションのまとめ】

大テーマ：With/Afterコロナ時代における高等教育について

テーマA：授業のあり方について

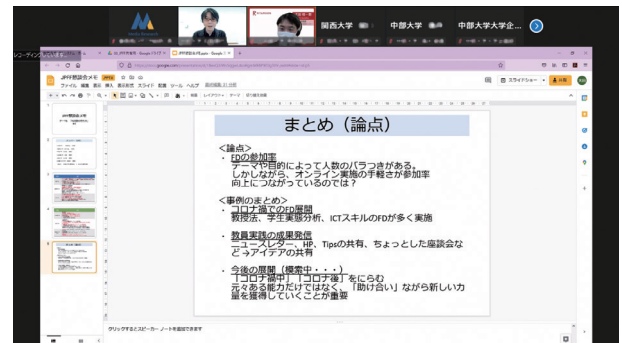
[キーワード]

オンライン授業の実施状況、オンライン授業のメリット・デメリット、対面授業・オンライン授業のハイブリッド化、アクティブラーニング、通信環境等の必要な環境整備、学生・教職員のICTスキル、質保証等

新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン授業が急速実施される等、授業形態が大きく変化しました。コロナ禍

JPFF代表幹事校・地域担当幹事校（中部大学・立教大学）

におけるオンライン授業の実施状況や問題点等を踏まえ、With/Afterコロナ時代における課題や工夫点等について話し合い、今後の授業のあり方等を共有しました。



懇談会の様子

最初に、各大学のコロナ禍におけるオンライン授業実施の問題点が情報共有されました。まず、ワクチンを接種していない等の理由により対面授業にオンライン参加を認めている場合の問題点として、教員は対面・オンライン授業の双方への対応から負担が大きくなるため、オンライン参加の要件を厳格化する必要があることが挙げられました。さらに、TA等のサポート要員の必要性や、2年生の満足度を高めるためのラーニングアドバイザー等によるサポート体制の充実、授業だけでなく友人づくり等の学生生活を支援する企画や場の提供の重要性についての意見もありました。

また、各大学で実施した学生アンケートの結果紹介等もありました。そこでは、対人スキル等といった学生の資質によってオンライン授業への向き不向きがあること、学生に授業形態（対面・オンライン）を選択させると学生の満足度が高くなる一方で、対面授業の受講者が少なくなり教員からは不満の声が挙がったことや、対面・オンラインに関わらず、授業の質が高ければ学習の充実が図れ、学生の授業に対する満足度が高いこと等が挙げられました。さらに、教育に関心が高い教員は、ICTの利活用にも積極的でオンライン授業においても高い評価を得ている等、教育への関心度と評価が比例する傾向にあり、必ずしもオンライン授業自体の評価が低いという結果では無いことが報告されました。

今後の授業のあり方について、次年度の授業実施方針は、原則対面実施とし、履修者の多い科目にオンライン授業を併用する大学が多いようです。これからは、むしろ対面授業をどう設計していくかを考える段階にきており、それを意識したキャンパスビジョンがこれまで以上に求められるといった意見もありました。また、オンライン授業を受講者数の多い授業で取り入れたり、プログラミング等の特定の授業科目で



中部大学 石田 康行教授

活用したり、複数キャンパスを持つ大学の教養科目等に活用するといった意見もありました。その他、オンライン授業の期末試験を大学としてどのように実施するのかといった問題点も挙げられました。

テーマB：FD活動のあり方について

[キーワード]

FDプログラム計画・実施方法、テーマ・ターゲット設定、課題改善、FD活動実績・評価、教職員からのニーズ等

2020年10月に全国私立大学FD連携フォーラム加盟校を対象に実施した「新型コロナ禍における授業およびFDに関するアンケート」の結果等からも、コロナ禍におけるFD活動について様々な工夫をして実施されている実態が見てとれました。ここでは、コロナ禍においてFD活動をどのように計画・実施し、また、どのような問題点が出てきたか等を踏まえ、With/Afterコロナ時代における課題等について話し合い、今後のFD活動の更なる改善のヒントやあり方を共有しました。

コロナ禍におけるFD活動の企画について、学生アンケートや教員アンケート等から授業に対するニーズを把握したり、学部学科へのヒアリング等からFDを企画する事例が紹介されました。

オンライン授業での教授法や話し方、ICTツールの使い方等、オンライン授業への支援に焦点をあてたFD活動を実施している大学が多い中、学生がオンライン授業を参観したり、学生参加型のFDを実施し、授業に関するアイデアや意見を募集したりする等の特徴的な取り組みも報告されました。また、アーカイブ配信やオンライン授業の実践例を共有するプラットフォームより動画を配信することや、教員から個別に発信した座談会でTipsを紹介した結果、情報交換が活発化したこと等、各大学からオンラインを基本とする事例も紹介されました。さらに、オンライン授業に関するノウハウを共有した事例では、どの媒体により周知し共有することが効果的であるか、今後検討する必要があるとの意見もありました。

また、FD活動の参加率については、オンライン実施により向上につながった事例もありました。一方で、テーマや目的によって参加率に幅があるものの、全体的に参加率が低い傾向にあり、多くの大学が抱える課題となっているようです。参加率を向上させる方策についても併せて意見交換が行われ、最先端に興味のあるテーマ設定を考える工夫をすることや、教授会と同日にFD企画を実施することで参加率を必然的に上げること、その他、教学IRフォーラムとFDフォーラムを共催で開催し参加者を確保する等の意見がありました。

Afterコロナ時代におけるFD活動については、コロナ禍での

経験を踏まえ、セミナー形式での開催や、各種情報共有ではオンラインを活用し参加率の向上を図ることが必要等の意見がありました。開催形態（対面・オンライン・ハイブリッド）の選択は模索中である大学が多く、今後の更なる改善課題として挙げられました。



立教大学 小澤 康裕准教授

【懇談会のまとめ】

懇談会には、60名と大変多くの方にご参加いただきました。他大学での取り組みや課題を参考にして今後の活動につなげようと、いずれのグループも大変活発な議論が交わされていたようでした。参加者からは、「同じ取り組みでも、実施内容や取り組み方は大学により様々で、各大学で工夫された事例が聞けて参考になった」、「同じ課題を抱えている大学も多く、悩みを共有できたのがよかった」といった感想をいただきました。他大学での取り組みやグッド・プラクティスを一つでも持ち帰り、更なる改善向上につなげていただければと思います。

幹事校・会員校ミーティング報告

1. 2022年度 総会・シンポジウム 開催日程について

2022年度の総会・シンポジウムを2022年6月18日(土) 13:00よりオンラインで開催することが報告されました。総会に先立ち、幹事会を12:00より開催する予定です。

2. 2022年度 実践的FDプログラム オンデマンド講義サービスの運用について

実践的FDプログラム オンデマンド講義サービスの運用や申し込み方法について説明がありました。

3. 事務局（メディア総研）との契約更新について

全国私立大学FD連携フォーラムの事務局業務を委託している「メディア総研株式会社」との契約更新について説明がありました。

入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、全国の高等教育の質の向上を目指し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校間での情報共有や意見交換を促進しています。

ウェブサイトでは取り組みの概要や、加盟校のFD活動についてご紹介しております。詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、ウェブサイト「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送、メール、FAXのいずれかでお送りください。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。

(年会費:5万円(2022年3月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

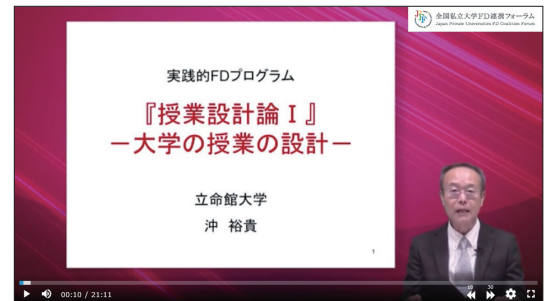
本プログラムは、教員の4つのアカデミック・プラクティス(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、

- ① 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
- ② 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
- ③ 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション

から構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保証することが可能となります。

各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義(オンデマンド)や講座(ワークショップ)等を選択し、様々なプログラムを作ることが出来ます。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。



JPF会員校

http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html

JPF非会員校

http://www.ritsumeai.ac.jp/itl/assets/file/campus/vod_annai_hikameiko.pdf

利用申込について

利用期間は最長1年間(当該年度内)となります。【上半期受付期間】2月1日～4月30日 【下半期受付期間】9月1日～9月30日
上記のウェブサイトより「利用申込書」ならびに「受講者情報登録用紙」をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、受付に記載のメールアドレスまでお送り下さい。

受付

立命館大学 (事務局:教育・学修支援センター 担当部署:教務課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8304 FAX:075-465-8311 e-mail:fd71cer@st.ritsumeai.ac.jp

全国私立大学FD連携フォーラム事務局

メディア総研株式会社 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1-10F TEL:03-6206-3030 FAX:03-6435-0801 e-mail:jpff@mda.ne.jp